

弓削商船高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	校内練習船実習（航海）	
科目基礎情報							
科目番号	4A14			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	商船学科			対象学年	4		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	はじめての船上英会話：商船高専海事英語研究会編（海文堂）弓削丸完成図書、実習の手引き、実習ファイル、その他配布書類等						
担当教員	森 瑛太郎,宮本 宝						
到達目標							
航海・機関に関する運航技術の基礎訓練を他の授業の進捗度合いに合わせて行い、船内生活を体験し船舶職員としての資質を涵養し、国際的な船員を目指す。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
航海当直	交通法規を理解し安全かつ合理的な操船が出来る			航海計器を利用し有効な操船ができています		当直時担当している作業を理解していない	
航海計器	航海計器の取扱いを理解し操作できる			航海計器の取扱いを理解し簡単な操作ができる		航海計器の取扱いを理解していない	
甲板機器	甲板機器の取扱いを理解し操作できる			甲板機器の取扱いを理解し簡単な操作ができる		甲板機器の取扱いを理解していない	
学科の到達目標項目との関係							
専門 A2 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要	練習船弓削丸を実際に運航し、当直業務等実船同様の運航の中で、稼働している船内機器・設備を通して基本的な原理、使用方法や管理の仕方について実習を行う。 また、班ごとの船内生活を通して環境の適応及び自己管理能力の向上を目指す。 この科目は、商船における操船・機関・運航業務を担当していた教員が、その経験を活かし、航海学と機関学に関する技術について実験実習形式で授業を行う。						
授業の進め方・方法	班ごとに教室授業と船橋授業に分けて実習を行う。 各港間の当直業務、出入港作業等実際の機器を使用した実習を行う。						
注意点	十分に周りの危険に注意を払い緊張感をもって実習に取り組むこと。 危険を伴う実習のため指定された服装を厳守のこと。（学則遵守） 養成施設引当て科目（単位）：航海コース [航海計器(0.1),操船(0.1),船舶の出力装置(0.1),海上衝突予防法(0.1)] 免許講習引当て時間：レーダー観測者講習（講義10・実技1）、ARPA講習（講義2・実技2）						
実務経験のある教員による授業科目							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	実習のガイダンス・航海当直要領			航海当直の任務を習熟する	
		2週	航海当直			航海当直の任務を習熟する	
		3週	航海当直			航海当直の任務を習熟する	
		4週	航海当直			航海当直の任務を習熟する	
		5週	レーダー・ARPA使用法			適正な使用法を習得する	
		6週	レーダー・ARPA使用法			適正な使用法を習得する	
		7週	レーダー・ARPA使用法			適正な使用法を習得する	
		8週	レーダー・ARPA使用法			適正な使用法を習得する	
	2ndQ	9週	海上交通法規			交通法規を習得する	
		10週	各種航海計器取扱い			各種航海計器取扱いを理解する	
		11週	天文航法			天文航法を理解する	
		12週	地文航法			各種航法、船位の誤差等を理解する	
		13週	操船法			入出港、錨泊操船法を理解する	
		14週	船体の構造、設備、復元性等			復元性等の計算法を習得する	
		15週	船舶の出力装置			出力装置の作動原理、制御等を理解する	
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					

		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	小テスト	実技	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	20	40	0	0	100
知識の基本的な理解	40	0	20	0	0	0	60
態度・志向性(人間力)	0	0	0	40	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0